

小学校6年～高校1年相当の女の子と保護者の方へ 〈HPVワクチン接種のお知らせ〉

未来の安心のため、
行動できる
「今」があります。

子宮頸がんはワクチン接種と検診で予防できます

（上記対象年代の女性の方は公費で接種が受けられます）

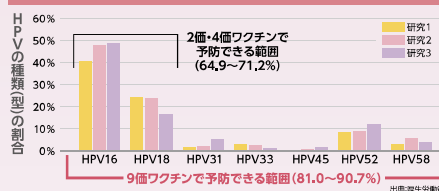
子宮頸がんとは

子宮の頸部という子宮の出口に近い部分にできるがんです。日本では毎年、約1.1万人の女性が子宮頸がんにかかり、約2,900人の女性が子宮頸がんで亡くなっています。
また、若い年齢層で発症する割合が比較的高いがんです。患者さんは20歳代から増え始め、30歳代までにがんの治療で子宮を失ってしまう（妊娠できなくなってしまう）人も、1年間に約1,000人います。25～40歳の女性のがんによる死亡の第2位は、子宮頸がんによるものです。

HPVワクチンとは

子宮頸がんの原因となる、ヒトパピローマウイルス（HPV）の感染を防ぐワクチンです。HPVワクチンには、2価ワクチン（サーバリックス®）、4価ワクチン（ガーダシル®）、9価ワクチン（シルガード®9）の3種類があります。
どのワクチンを接種するかは、医師にご相談ください。

日本人女性の子宮頸がんにおける
HPVの種類（型）の割合と、ワクチンで予防できる範囲



HPVワクチンの副反応

HPVワクチンの接種後には、接種部位の痛みや腫れ、赤み、頭痛などの副反応が起こることがあります。接種後に体調の変化や気になる症状が現れたら、まずはワクチンを受けた医療機関などの医師にご相談ください。

一般的な接種スケジュール



平成9年度生まれ～平成19年度生まれの女性の方へ

定期接種の対象年齢だった期間に、HPVワクチン接種の機会を逃した方がいらっしゃいます。まだ接種を受けていない方に、あらためて接種の機会をご提供しています。

令和7(2025)年3月まで、公費で接種できます。※過去に、合計3回の接種を受けていない方が対象。

ワクチン接種に関わらず、子宮頸がんの早期発見のため、20歳になったら2年に1回、子宮頸がん検診を受けましょう。

予防接種は各市町で実施しています。実施場所や接種時期などの詳細は、お住まいの市町の予防接種担当窓口へ直接お問い合わせください。

栃木県保健福祉部 感染症対策課

TEL.028-623-2834

栃木県 HPV 検索

